

令和元年度前期学校関係者評価書

南アルプス市立小中一貫校八田小中学校
南アルプス市立八田小学校
南アルプス市立八田中学校

第1回学校関係者評価委員会

日時：令和元年8月29日（木）19：00～20：30

場所：八田ふれあい情報館小会議室

<学校関係者評価委員>

井上 孝雄（学識経験者，元小学校長） ※学校関係者評価委員長
鈴木 正一（学識経験者，元中学校長）
穴水 史彦（令和元年度八田小学校PTA会長）
清水 一徳（令和元年度八田小学校PTA副会長）
清水絵美子（令和元年度八田小学校PTA副会長）
湯沢 信（令和元年度八田中学校PTA会長）
内藤 美佳（令和元年度八田中学校PTA副会長）
小澤 昌史（令和元年度八田中学校PTA副会長）
戸澤 美咲（令和元年度八田中学校PTA副会長）
神宮寺静徳（八田小学校後援会長）

1. 教職員の自己評価

(1) 学校経営について

- 小中一貫校として、まず取り組んでいることは「9年間を見通した教育課程」を実施することにある。しかし、小学校、中学校ともに小中一貫校の教育目標の周知徹底がされていないようだ。
- 児童、生徒にも小中一貫校であるという意識づけが今一つ浸透していないという印象を受ける。生徒自身に授業に取り組む姿勢を自ら考えさせ、徹底させていきたいということなので、今後、そこから意識向上につながっていくことを願っている。
- 経営方針については教員・生徒が一体となって理解し、目標に向かって頑張っているように思う。ただ、B評価が多いのは少し気になるので、後期の評価ではA評価が増えるよう期待している。
- 小中一貫校では「中一ギャップ」を解消し、小学校から中学校進学時における不登校になりがちな生徒を少なくすることが期待されている。八田小中では、これまでも小中連携を行ってきたが、さらに児童生徒間の交流を深めていきたい。
- 一貫校としての取り組みが始まったばかりということもあり、教職員にも一貫校としての強みをまだ感じられていない人もいるようだ。これからも小中でお互い密に連絡・連携を取り合い、強みを実感できるように頑張ってもらいたい。
- 一貫校として何をしようとしているのかが見えてこない。何か目に見える取り組み

があると保護者や地域住民からも理解されると思う。

(2) 教育課程・学習指導について

- 小中一貫した教育課程・学習スタンダードを作り，日々実践するには長い年月がかかると思う。しかし，それにそった学習をすることによって，子どもたちは，小中で重複する学習内容を確認できるだけでなく，単に知識や技術を習得する学習から，さらに深い学びのある学習へと深化できるのではないかと思う。
- 小学校・中学校ともに家庭学習への取り組みができていないようだ。何かよい方策を考えてほしい。
- 家庭学習の積み重ねが学力の向上につながることを生徒に理解，実感させられるよう，家庭学習の指導は今後も継続して取り組んでほしい。
- 家庭で自主学習をさせることはなかなか難しいが，自主学習をしてきた子に対する評価付けなど，目に見える取り組みを行い，生徒たちのやる気を起こさせるようにしてほしい。
- 教師が頑張っていると自己評価しているが，その姿勢が生徒・児童にも伝わっているだろうか。生徒のアンケートを見る限り，もうひと踏ん張りではないかと感じる。
- 夏季休業等を活用し，中学生が小学生に勉強を教えるなどの取り組みも今後考えていきたい。
- 小学校・中学校ともに，よい姿勢で学習することができていないようだ。腰を立て，話を聴くことは学習の基本であると考え。子どもたちが，背筋を伸ばした姿勢で授業に向かうよう取り組んでほしい。（立腰教育）
- 自分の意見がなかなか言えない子がいる中で，グループ分けをして少人数での話し合いを行うことにより，意見を言いやすくする取り組みは，大変良いと思う。
- 子どもたちが生きていくことになるこれからの社会を考えた時に，自分の意見・主張をしっかりと言うことのできる力（資質・能力）を身につけさせたい。自分の意見を言うためには，人の意見もしっかりと聞く必要があるので，とても大切なことである。

(3) 生徒指導について

- いじめや不登校生徒に対して，適切に指導，アプローチがなされていると感じた。今後も生徒との信頼関係のもと，根気強い指導をお願いしたい。
- 生徒指導については，八田地区の子供は元々素直な子が多く，学校生活・家庭生活において全体的には特段の配慮はいらぬのではないかと感じる。（もちろん配慮を必要とする子も少なくないが…。）
- 八田は，先生達と生徒達（児童達）とのコミュニケーションがよく取れている学校だと思つづく感じている。このまま良いコミュニケーションを取りつつ，気づいたことはすぐに指導できる雰囲気をこれからも大切にしていってほしい。

(4) 特色ある開かれた学校について

- 地域とのつながりを生かした特色ある教育活動や学級経営を行っていきたい。

- 地域の良さや特長を生かした「魅力ある学校」にしてほしい。そのためには、八田小中学校としての特色が必要だ。
- 合唱や応援やスポーツは、地域の特色がある。今後もそれらを活用した教育をするべきだと思う。伝統にするためには、継承することが大切なので、OBからの意見・指導を受けるような地域の連携というのはどうだろうか。
- 教育活動の中に地域の人材や施設を利用していきたいと考えている教員がいるようだが、学校応援団コーディネーターとともに、考えていきたい。
- 小中一貫校ならではの特色を生かした学校づくりはこれからだと思うが、児童会・生徒会・運動会・学園祭・卒業式・入学式等の学校行事についても、アイデアを出して途切れのない9年間の学校生活ができるよう期待している。
- 道徳科の授業などに直接地域の人が入ってディスカッションをする案はとても良いと思う。また、夏休みの際には、自由研究などの参考になるような講習会（地域の人の職業を用いた）を開いて、地域とのコミュニケーションを図っていくのも良い。

2. 児童・生徒アンケートから

- 八田地区の子供の素直さが表れている。このまま、世間で騒がれているような「いじめ問題等」が発生しないよう願っている。

3. 保護者アンケートから

- 概ね学校に子供を委ね安心している様子がうかがわれる。
- 学校と保護者との連絡がうまくいってないことが多々あるようなので、連絡ツールなど、多岐にわたる連絡手段を使って、確実に情報伝達ができるようにしてほしい。

4. 成果と課題（今後取り組むべき点、継続するべき点について）

- 小中で学校評価書のまとめ方が違っている。項目を揃えたのだから、今後は形式も揃えるとよい。小中の比較ができれば、猶のことよい。
- 不登校の児童生徒に対して、中学校の教員は、小学校時代のその子の様子を聴き、小学校の先生方と連携・協働して登校の指導にあたることも必要だと思う。
- 課題や対策に取り組んでくださり、ありがたい。
- 学区全体で一貫校としての認知度を高めていただければ、育成会および自治会等でも協力できることがありそうに思う。
- 長期欠席の生徒が多いとのことだが、その原因は分かっているのか？いじめだけが原因ではないと思う。（友だち関係や授業についていけない等）それぞれの内容にあった対策をとっていけるように、聞き取りや情報収集をしっかりとってほしい。
- 家庭学習においても、いじめに関する問題においても、「携帯電話」が切り離せない課題としてあるように思う。たとえルールを決めていたとしても、勉強に飽きるとスマホでゲームをしてしまったり、SNSを通しての会話で友達を傷つけてしまったり…。スマホの使い方に関しては、家庭で管理すべきことだとは思いますが、学校でも取り上げてもらえるとうれしい。

5. その他

- 先生方の仕事内容が多岐にわたる中で、学習、生徒指導等、丁寧に関わっていただいている様子が伝わってきた。
- 子供たちの登下校の様子がしっかりとしている。
- 通学路や学校で児童や生徒と会うと、「おはようございます」と声をかけてくれる。子どもたちの笑顔を見ると、とてもうれしくなり、八田小中学校で楽しく学校生活を送っているのではないかと感じる。先生方に感謝するとともに、地域住民の一人として、これからも八田小中学校の教育活動に支援・協力していきたい。
- 年々地域の子供の数が減っている中で、若い世代の移住者が最近増えてきたように思う。さらに魅力のある学校づくりをお願いしたい。
- 中学生の保護者という立場からだが、中学生になると家で学校のことを何でもしゃべるといことがなくなる。子どもからの情報が少ないと、学校での先生方の取り組みを理解しにくかったり、不安になったりすることもあるが、「Children first」という気持ちは先生方も保護者も同じである。子どもたちのために、共に努力していけたら、と思う。